

# 第5学年 体育科学習指導案

## 1 単元名

保健領域「けがの防止」

## 2 単元計画

時	学習内容	I C T	
1	・事故やけがは、人の行動と周りの環境が原因で起こること、人の行動は、心の状態や体の調子と関係していることを理解する。		資料提示 
2 (本時)	・学校で起こるけがを防止するには、決まりを守るとともに、危険に気付き行動すること、環境を安全に整えることが大切であることを理解する。		
3	・交通事故を防ぐために大切なことや必要なことを理解する。 ・けがを防ぐために大切なことや必要なことを理解する。 ・犯罪から身を守るために大切なことや必要なことを理解する。		
4	・けが人が出たときは、適切に対処する必要があることを理解する。 さらに、簡単な手当ができるようになる。		

## 3 「小中一貫教育」を通して、具体化する視点

### (1) 指導内容の「系統性」

第5学年体育科保健領域では、「心の健康」、「けがの防止」を学習する。本単元では、けがの発生要因や防止の方法について理解できるようになる。また、けがなどの簡単な手当ができるようになる。これに関連し、第3・4学年社会科では、地域社会における災害及び事故を防止する取り組みなどについて学習する。また、第5学年社会科では自然災害から身を守るために、市町村や地域で行われている共助の取り組みなどについて学習する。さらに、第8学年体育科保健領域では、自然災害や交通事故などによる傷害の発生要因やその防止対策、応急手当などについて学習する。この単元では特に、第8学年体育科保健領域へのつながりを意識して指導していく。

### (2) 指導法の「連続性」

#### ①対話的な学びの充実

保健学習で友達と対話する際は、生活経験を生かした個々の考えを大切にし、自分の言葉で伝えるようになる。毎時間対話的な活動を取り入れることで、児童・生徒の思いを大切にしたり、個々の考えを広げ深めたりすることができ、主体的な学びにつながると考える。

#### ②タブレットPCの動画機能を活用した学びの展開

小学部5年生の学習では、学校内で「けがが起こりやすい場所」の休み時間の様子をタブレットPCで撮影し、情報共有を図った。中学部8年生の学習では、「けがの手当の仕方」を動画で確認することで、使える知識としての定着を図る。思考を共有したり、知識・技能の定着を図ったりするために、タブレットPCの動画機能を活用した学びは、有効的だと考える。

#### ③養護教諭と連携を図った学びの展開

養護教諭が正しい情報や処置の仕方を説明することで、より専門的に学ぶことができる。そのため、児童の意欲が高まり、知識・技能を確実に定着させることができると考える。

«養護教諭によるT2指導（杉並和泉学園）»

学年	単元名	主な養護教諭の説明
4年	育ちゆく体とわたし	体の発育・発達について 思春期の体の変化について
5年	けがの防止	校内でのけがの発生状況と原因について
6年	病気の予防	喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について
8年	傷害の防止	応急手当の仕方について

#### 4 本時（4時間扱いの2時間目）

##### （1）ICT活用

学習場面	課題設定	個の思考	思考の共有	問い合わせ
学習活動	見通しをもつ		互いの考えを比較する	自己の変容に気付く
タブレットPC			 	

##### （2）展開

学習内容・活動	・指導のポイント ★評価
<p>1 前時を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>けがや事故の原因は、「環境」、「人の行動（心の状態）」であることを振り返る。</li> </ul> <p>2 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校内のけがの発生場所のグラフを提示し、けがの多い場所を確認する。</li> </ul> <p>1位 校庭 2位 教室 3位 大・小アリーナ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーションソフトを活用し、児童の興味関心を高める。</li> </ul>
<p><b>めあて</b> 学校でのけがを防ぐにはどうすればよいか考えよう。</p>	
<p>3 校内で起こるけがの原因について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校内で考えられるけがの動画、静止画を見ながら話し合う。</li> </ul> <p>(1) どんなけがが起こりそうか。 (2) 原因は何か。 (3) 防ぐにはどうしたらよいか。</p> <p>4 全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>動画を見せながら、全体に発表する。</li> </ul> <p>5 校内のけがを防ぐためにどうすればよいか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人で考える。</li> <li>班で話し合う。</li> </ul> <p>6 全体に発表し、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>班で話し合った内容を発表する。</li> </ul> <p>C：走らない。落ち着いて行動する。 廊下や階段では右側を歩く。 物を置きっぱなしにしない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>班に1台、タブレットPCを配布する。</li> <li>事前に撮影させておく。</li> <li>他の班が撮影した静止画・動画を基に考える。</li> <li>前時で学習した、「環境」、「人の行動（心の状態）」に分けて考えさせる。</li> </ul> <p>・展開後半の時間を確保するため、発表する班の数を絞る。</p> <p><b>★</b>学校でのけがを防ぐことについて関心をもち、グループワークや発表などに意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>・まずは班の中で順番に考えを発表した後、話し合うことで、全員が考えを伝え合う時間を確保する。</p>
<p><b>まとめ</b> 学校でのけがを防ぐためには、落ち着いて行動したり、学校のルールを守ったり、整理整頓をしたりするとよい。</p>	
<p>7 学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後の学園生活をけがなく過ごすために、どのように過ごしていきたいかを考える。</li> </ul>	<p><b>★</b>学校でのけがを防ぐ方法について理解している。 &lt;問い合わせ&gt;</p>

# 第8学年 保健体育科学習指導案

## 1 単元名

保健領域「けがの応急手当」

## 2 単元の目標

- ・けがの応急手当について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。(関心・意欲・態度)
- ・けがの応急手当について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、実践的に考え、判断し、それらを表している。(思考力・判断力・表現力等)
- ・けがの原因や防止、手当について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。(知識・理解)

## 3 単元計画

時	学習内容	I C T
1	・応急手当の意義と心肺蘇生	
2	・心肺蘇生法の手順・方法	
3		
4 (本時)	・けがの応急手当	

## 4 評価規準

	運動や健康・安全への 関心・意欲・態度	運動や健康・安全 についての思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
評価 規準	・けがの応急手当について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしているか。	・けがの応急手当について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、実践的に考え、判断し、それらを表しているか。	・けがの原因や防止、手当について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解しているか。

## 5 「小中一貫教育」を通して、具体化する視点

### (1) 指導内容の「系統性」

第5学年体育科保健領域では、「心の健康」、「けがの防止」の単元で、けがの発生要因や防止の方法を学び、また、けがなどの簡単な手当の仕方を学習した。第7学年では、「体の発育・発達」の単元で自分の身体について理解し、第8学年では、自然災害や交通事故などによる傷害の発生要因やその防止対策、応急手当などについて学習する。

### (2) 指導法の「連続性」

- ①第5学年では、けが人がでたときの対処の仕方やすり傷、切り傷、鼻血、やけど、ねんざ、打撲などのけがをしたときの簡単な手当の仕方を学習した。第8学年では、応急手当の実習ということで包帯の巻き方や三角巾の使い方について実際にやってみてその難しさに気付かせ、考えさせる。
- ②三角巾や包帯の使い方について視覚的に理解を深められるように、タブレットPCを活用して資料を提示する。
- ③話し合い活動を行う際に、活動の前にまず個人の考えをもたせることにより、より考えを深めることができるようとする。
- ④養護教諭と連携を図った指導を進める過程において、養護教諭が正しい情報や処置の仕方を説明することで、より専門的に学ぶことができる。そのため生徒の学習意欲が高まり、知識・技能を確実に定着させることができるようとする。

## 6 本時（4時間扱いの4時間目）

### （1）本時のねらい

- ・けがの応急手当について、三角巾の使い方や包帯の巻き方について理解し、課題の解決を目指して、実践的に考え、判断する。

### （2）ICT活用

学習場面	課題設定	個の思考	思考の共有	問い合わせ
学習活動	見通しをもつ		互いの考えを比較する	自己の変容に気付く
タブレットPC			 	

### （3）展開

学習内容・活動	・指導のポイント ★評価
1 本時の流れの説明 <ul style="list-style-type: none"> <li>・けがの応急手当について（三角巾・包帯）を使っての学習</li> <li>・昼休みに遊んでいて腕（左手）をけがしてしまった。動かすと痛みがとても強い場合、骨折やねんざの可能性がある。この場合、固定すると痛みが少し和らいで悪化を防ぐことができるということで三角巾を使う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角巾や包帯で固定することによって痛みを和らげ、悪化を防ぐことができる事を知らせる。</li> <li>・具体的な場面を取り上げ、説明する。</li> </ul>
2 実際にやってみる 机を生活班にする <ul style="list-style-type: none"> <li>・班でどのように三角巾を使うか意見を出し合う。</li> <li>・話がまとまつたら患者さん役と手当をする人を決めて実際にやってみる。</li> <li>・固定し終わったら班ごとに発表（3～4班）</li> </ul> ワークシート配布	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班に三角巾、包帯を配布する。</li> <li>・よりよい使い方になるように試行錯誤させる。</li> </ul>
3 実際のやり方を動画で説明する 班内2人組で交代しながらやってみる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットPCを使って説明する。</li> <li>・2人に1枚三角巾を配布する。</li> </ul>
4 膝、足首についても動画を見ながらやってみる。（どちらか）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試しに取り組んだ方法と正しい方法を比較させ、取り組ませる。&lt;問い合わせ&gt;</li> </ul>
5 動画を見ながら包帯の正しい巻き方についてやってみる。班の中で患者さん役と手当をする人を決めてやってみる。交代して全員が行う。 ①腕 ②指 （どちらか） 教科書P85	<p>★けがの応急手当について、三角巾の使い方や包帯の巻き方について理解し、課題の解決を目指して、実践的に考え、判断している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2人に1個包帯を配布</li> </ul>
6 学習の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習内容について、ワークシートを活用して、振り返らせる。</li> </ul>